

ベートーヴェン“ しあわせのソナタ ”
生涯現役ピアニスト・室井 摩耶子トークコンサート

日 時： 5月22日(日) 13:30～14:30

会 場： 東京富士美術館



出 演： 室井 摩耶子 (ピアノ)

内 容： 戦中戦後の音楽界で一世を風靡し、84歳にして今なお現役ピアニストの室井摩耶子。聴く人を惹き付けてやまない深い演奏と、熟考された味のあるトークをお楽しみください。

曲 目： ベートーヴェン / しあわせのソナタ (Op.79 G-Dur) 他



室井 摩耶子 (ピアノ) むろい まよこ

1956年、モーツァルト生誕200年記念祭に日本代表として、ウィーンに派遣され、引き続きドイツ政府より奨学金を受けベルリンに滞在する。ウィーンでハウザ - 教授、ベルリンでロロフ教授、ポジタノでケンブ教授に師事。

1960年ベルリンでベートーヴェンの四つのソナタのリサイタルでヨーロッパデビュー、まれに見る好評でヨーロッパにおける地位の第一歩を築いた。

1964年ドイツで出版された「世界の150人のピアニスト」に紹介される。

1967年11月よりユーゴ、ドイツで16回にわたる音楽会の後、1968年2月イタリア政府よりローマに3ヶ月招待を受ける。その後もザグレブ国際音楽祭、ソフィアの春等に出演。国内より国外に於いて名声を高めた。

日本ではめずらしい息の長いピアニストとして、その円熟した演奏は評判高く1998年紀尾井ホールで行われたオールシューベルトプログラムでのリサイタルは、絶賛を博した。

特にベートーヴェン、シューベルト、ブラームスの解釈には定評がある。

2002年6月には井上道義指揮、東京フィルハーモニー交響楽団との共演で、ベートーヴェンのピアノ協奏曲第4番を演奏、満員の聴衆に深い感銘を与えた。同年12月にはウィーンのウリリーケ・ダンホーファー(Vn)、アダルベルト・スコチッチ(Vc)を共演者に迎えて、ベートーヴェンのピアノトリオ「大公」を演奏、絶賛を博した。